

News Release

2008年1月21日

豊田通商株式会社

豊田ケミカルエンジニアリング株式会社

太田油脂株式会社

バイオディーゼル燃料製造の新たなプロセスを開発

—海外展開のコア技術に—

豊田通商株式会社（以下豊田通商、本社：名古屋市 社長：清水順三）は、グループ企業の豊田ケミカルエンジニアリング株式会社（以下豊田ケミカル、本社：半田市 社長：井上文男）及び製油メーカーの太田油脂株式会社（以下太田油脂、本社：岡崎市 社長：太田進造）と共同で、低コストで高品質のバイオディーゼル燃料を製造するプロセスを開発しました。

バイオディーゼル燃料は環境対応型の軽油代替燃料として、欧州を中心に普及が始まり、石油価格高騰と地球温暖化ガス削減要請を背景に、今後世界的に需要が高まることが期待されています。

しかし石油と異なり、原料が、地域により、量・質にばらつきがあることから、広く普及するには、生産に関わる経済性と、自動車燃料としての高品質の確保が課題となっていました。

開発した新プロセスは、ユーティリティインフラが整わないような海外原料サイトで、地産地消型事業が可能な経済性と欧州及びJIS規格に適合する品質を実現できるものであり、具体的な特長は以下のとおりです。

- ①工業用水や排水施設が不要である。
- ②シンプルな装置構成のためランニングコストが低減できる。
- ③小規模生産から大規模生産のニーズにも対応できる。

新プロセスは、バイオ燃料の本来のコンセプトにも合致しており、環境負荷低減を実現することができるものと思います。

なお、燃料品質の高さが認められて、ダカールラリー2008の競技車両用に、回収油から製造したバイオディーゼル燃料が採用となった実績があります。

(1/4付けAFP=時事より：ダカールラリーはコースでの治安確保が困難とのことより中止)

豊田通商は、豊田ケミカル、太田油脂と共に国内で実績を積みながら、海外でのバイオディーゼル事業への進出を検討して参ります。

本件は中部経済産業記者会及び貿易記者会に同時に資料配布しております。

【本件の問合せ先】

豊田通商株式会社

広報・IR室(名古屋)

小西

Tel:052(584)5011

広報・IR室(東京)

小林、下陸

Tel:03(5288)2087